



西高新聞

NAGASAKI NISHI INFORMATION

第289号

令和5年 7月28日 発行

編集責任者 初村 一郎

<http://www.nagasaki-nishi.ed.jp>

信頼され続ける学校 学びがいのある学校 居場所のある学校

校長室から

「続ける力」

校長 初村 一郎

こんにちは。赴任して3ヶ月が経過し、ようやく落ち着いた学校生活を肌で感じることができるようになってきました。この寄稿も今回で4回目。今、この原稿を書きながらつくづく思うことがあります。

単に流し読みしてもらえらる程度に書けばいいやと思えば、さほど難しくはないかもしれませんが、自分に納得のいく文章を書きたいと思うと、それなりの時間をかけて精進することが必要です。ところが困ったことに、これがそう簡単にはいきません。なぜなら、「苦手なこと＝やりたくないこと」を「期限までに」「上手に」しなければならないというストレスと闘うのは、容易なことではないからです。「やらない」理由はいくらでも思いつくのですが…。我々はこうした経験を繰り返し、次のどちらかの反応が癖になります。すなわち、(1) 努力する癖、(2) 不平を言う癖。

ここで私はふと、(1) を自分に言い聞かせるようにこれを書いていることに気がつきます。これまでの仕事を振り返ってみると、いやいやながらでもやってみて大抵のことはその後の役に立っています。この訓練から、何事も「ひとつやってみるか」という懐の深さも身につけてきます。

継続は力なり、とよく言われますが、苦手なことほど継続することは簡単ではありません。若い頃、「苦手な人とはとことんしゃべれ」と教えを受けたことを思い出します。実は、食わず嫌いとか先入観が先に立って、自分でバリアを作っているだけなのです。話せば話すほど、その人となりがわかってきて、良さが垣間見えてきます。友達や先輩後輩、師弟関係等も同じで、最初は話すことからさまざまな関係が生まれてきます。

行き着くところ、家庭では、「離さない 今となつては 話さない」なんてことにならないよう気をつけたいものです。…話が脱線しました。(笑)

どんなことにも騙されたと思って辛抱して取り組んでいくことで、その楽しさや本質が見えてくるものです。その初動をどういう心構えで向き合うか、その差が人それぞれであり、前向きに考えることができる人間を目指したいと思っています。

生徒諸君には、人並みで満足せず、人の2倍3倍、こつこつと継続して頑張り抜くことで自信につなげてもらいたいと思います。「本物は続く 続ければ本物になる」「成功するとは成功するまで続けること」という言葉があるとおり、自分に負けず、何事も心意気確かにつけていくことで、本物になっていくことを期待しています。

「私もまた 生徒とともに 道半ば」…自戒を込め、私自身も頑張つて寄稿しながら、相応の文章が書けるよう成長していきたいと思っています。今後ともお付き合いのほど、よろしくお願いします。

平和学習 6月23日(金)

6月23日(金)に、8月9日の平和学習に向けた事前学習を全学年で行いました。1学年は、各教室において「戦禍に消えた青春」を視聴し、原爆投下と平和について考えました。最後には感想文を書き、平和学習作品集を作成しました。2学年は、原爆資料館と追悼平和祈念館を見学し、78年前に起きたことに思いをはせ、世界平和への祈りを込めて「2023 ナガサキニシ発・平和への50字メッセージ」を作成しました。3年生は、城山小学校旧校舎、山里小学校(防空壕)、如己堂(永井隆記念館)、平和公園(長崎刑務所浦上刑務支所跡及び原爆無縁死没者追悼祈念堂)、浦上天主堂旧鐘楼及び被爆石像、長崎大学医学部(旧長崎医科大学門柱)、山王神社(被爆クスノキ)の7地点の被爆遺構及び関連施設の中から3地点を巡るルートを計画し、班ごとに巡りました。原爆の恐ろしさに思いをはせるとともに被爆者への慰霊の念を捧げました。また、世界平和への祈りを込めて、各自が詩または短歌、俳句を作成しました。各クラスから選考した作品は、8月9日の平和学習会で発表し、原爆死没者の御霊にささげる予定です。



【教務部 窪田 弘毅】

校内競技大会 7月4日(火)

令和5年度前期競技大会は、第1体育館の外壁工事に伴い県立総合体育館での実施となりました。空調管理も万全で、生徒はのびのびとスポーツを楽しみ、爽やかな汗を流すことができました。また、2階席から保護者の皆様にも観戦していただくこともできました。競技大会終了後には、9月に開催される西高祭・運動会のテーマ発表、各班の色決めセレモニーも行われ、盛り上がりを見せました。

引き続き野球部の壮行式も行われました。野球部主将の坂田凜太郎君の夏の大会に向けた思いをここに掲載します。

「私が高校野球を通して学んだことは、仲間の大切さです。昨年の夏の大会での悔しさ、キャプテンとしての重圧、どんな時も苦楽を共にできる仲間の存在が力となりました。壮行式でも宣言したとおり、大切な仲間や支えてくれた両親と共に、最後まで全力プレーで最高の夏にしたいと思います。」

【自律活動部副主任 田中 佐和子】



令和5年度心肺蘇生法研修会 7月6日(木)

長崎市消防局から講師をお招きし、1年生と教職員を対象に心肺蘇生法の研修会を実施しました。突然の心停止を起こした人の救命率を上げるためには、できるだけ早い段階での心肺蘇生、電気的除細動の実施が重要です。学校や職場あるいは家庭など身近な場所でも急を要する事態に遭遇することがあるかもしれません。そばにいる人が勇気をもって心肺蘇生を行い、AED(自動体外式除細動器)の使用につなげていくことができるよう、熱心に取り組みました。



【保健体育科主任 大久保 耕造】

第105回 全国高等学校野球選手権長崎大会 7月6日(木)

7月6日(木)に行われた、本校対諫早高校の第105回全国高等学校野球選手権大会の開幕戦で全校応援を実施しました。試合開始が16:00ということもあり、希望生徒と教職員約500名でビッグNスタジアムへ移動しました。連日雨模様でしたが当日は奇跡的に晴れて強い日差しと蒸し暑さのなか、野球部、バスケットボール部、水球部など、有志のリードと吹奏楽部の力強い演奏のもと、全員が汗を拭いながら必死で応援を行いました。初回に4点を奪われ、中盤までなかなか追いつけない展開でしたが、7回に大量5点を取り、勝利を決めました。ハラハラドキドキの試合展開の中、勝利を信じて諦めずに戦う選手たちの姿、爽やかさに大きな感動をもらった一日でした。

【自律活動部 岩崎 正吾】

**第75回 運動会へ向けて**

9月3日(日)に第75回運動会が本校グラウンドにて開催されます。今年のテーマは「青春西高(せいしゅんさいこう)～開放と爆発の1日～」です。“コロナ禍に設けられたさまざまな制限がなくなり、再び西高生が青春を謳歌できます。『最高』の運動会になるよう期待を込めて”との思いを込めたものです。保護者の皆様の観覧もできるよう予定しております。ご声援を賜り、生徒たちの頑張りを後押ししていただければと思います。

【保健体育科主任 大久保 耕造】

令和5年度西高祭に向けて

9月9日(土)午後から10日(日)にかけて、校内開催の形でいよいよ西高祭が再開される見通しです。中学時代、文化祭を経験していない生徒もいる中、食物バザーについては、ノウハウを知る職員も入れ替わりになっており、古いファイルを見ながら生徒共々からの手探り状態です。しかし過去にとらわれず、どこか新しい方法も取り入れながら、「羽化」のテーマの下、皆で創り上げてゆきたいと思います。8月末には運動会と併せて地域自治体へも実行委員、生徒会でご案内がてらあいさつに伺う予定です。西高生の笑顔あふれる2日間になることを願います。なお一般公開は10(日)です。

【自律活動部 麻生 今日子】

学年だより**第1学年****－ 夏にしかできないことがある －**

今年度より希望制で実施した三者面談でしたが、たくさんの保護者の方々に来校していただきました(参加率77%)。この場を借りてお礼申し上げます。また、今回は残念ながら都合が付かなかった方もいらっしゃるかと思います。12月にも今回同様の面談の機会を予定していますので、ぜひご検討ください。

78回生が本校に入学して4か月が経ち、高校生活初めての夏休みを迎えます。夏休みと言っても課外授業や部活動があったり、オープンキャンパスに参加したりとさまざまな予定が詰まっている人も多いでしょう。それでもこの夏休みはここまでの自分の歩みを振り返りつつ、今後の学校生活への活力を蓄える絶好の期間と言えます。

私事で恐縮ですが、高校1年生の私は詩集を読み漁りました。当世流行っていた銀色夏生の詩集に端を発し、寺山修司、吉野弘、谷川俊太郎、ボードレールなど、暇さえあれば詩集と名の付くものを探して足繁く図書室に通いました。隠れるようにして詩を読み耽る私を級友は奇異の目で見ていたと思います。ある時、そんな私に母が一冊の歌集を勧めてくれました。

たはむれに母を背負ひてそのあまり軽きに泣きて三步あゆまず 一握の砂/石川啄木

結局母を背負った経験はないのですが、消えることのない夏の母との記憶です。この歌集は今、私の本棚にひっそりと鎮座しています。

さて、一度しかない高校生活です。高校1年生として過ごす夏休みも一度きりのものです。この夏にしかできないことがきっとあります。漫然と過ごすのではなく、悔いの残らない充実した日々となることを期待しています。

【第1学年主任 石橋 可巳】

第2学年**－ 計画的な夏に －**

三者面談では、お忙しい中御来校いただきありがとうございました。面談での内容を今後の指導に生かしていきたいと思います。

生徒たちは、夏季授業、夏季課外、部活動の上位大会、オーストラリア語学研修など、それぞれの立場で充実した夏を過ごすと思います。また、先日の「西高の日」では、2年生が活躍する場面も見られ、77回生の成長に頼もしさを感じました。

さて、2年生は大事な夏を迎えています。この夏をどう過ごすかで、秋以降ひいては来年、その先の成果が大きく変わってきます。1学期を振り返り、自己を見つめ「計画的に過ごす夏」にしてほしいと思います。2学期以降は、学年でも通常の授業や個別指導、また進路希望に応じた集会などを通じて学力の充実と進路意識の高揚を図っていきたくと思っています。ご家庭におかれましても、学校での出来事を話題にいただき、進路選択についての情報共有を図って頂ければと思います。

【2学年主任 宗田 将平】

第3学年**－ 人生で一番頑張った夏 －**

7月10日(月)からの三者面談については、ご来校いただきありがとうございました。お子様の生活面・学習面そして進路実現に向けての情報共有をすることができましたので、今後の指導に活かしていきたいと思います。志望大学の個別試験の配点を踏まえ、教科バランスを考えた学習の進め方など、今回の面談で受けたアドバイスを確認し、この夏の個別の学習計画を立て、それを実行しましょう。学校としても夏季特別課外などの形でフォローアップを考えております。

3年生にとってこの夏はとても大事なものとなります。振り返ったときに「人生で一番頑張った夏」と言えるように、1日1日の濃度を濃いものにしましょう。そして、妥協せずやり抜きましょう。また健康管理等、ご家庭におけるお子様のバックアップもぜひよろしくお願いします。

【第3学年主任 月川 希】